

3 実践型学習における取組

a. 産学連携による実践型学習における取組

3. 実践型学習における取組

a. 産学連携による実践型学習における取組

(1) 社会人基礎力の育成手法について

① 教育プログラムの設計

i) 教育目標・位置付け

このプログラムは、学生の社会人基礎力を内面から高めるとともに学習意欲の喚起・高揚を図り、フォロワーシップとリーダーシップとを状況に応じて柔軟に発揮することのできる人材の育成を教育目標に置いている。そして、このプログラムは、このような人材にまで学生を一挙にもっていくのではなく、彼らの成長に合わせて、教育プロセスを一貫した三段階に階層化している（三段階スパイラル・ステップアップ方式 図2-2）。

- ・第一段階：1年次生（科目名 O/OCF-PBL1：On/Off Campus Fusion-Project Based Learning）

過去の経験から、3つの社会人基礎力のうちシンキングとアクションとがまず先に成長することが分かっている。そして、シンキングとアクションとが十分確立したのち、チームワークが成長するのではないかと思われる。そこで、第一段階の1年次生の教育目標はシンキングとアクションとの確立にウェイトを置いた。

- ・第二段階：2年次生（科目名 O/OCF-PBL2）

第二段階の2年次生は下記 第三段階の3年次生とミックスのチームを編成し、チームワークの育成を目指す。そして、2・3年次生ミックスのチームにあって、2年次生は、チームワークの要素のうちフォロワーシップのコアになる「傾聴力」の確立にウェイトを置いた。

- ・第三段階：3年次生（科目名 O/OCF-PBL3）

第三段階の3年次生は上記 第二段階の2年次生とミックスのチームを編成し、チームワークの育成を目指す。そして、2・3年次生ミックスのチームにあって、3年次生は、リーダーシップのコアになる「働きかけ力」を活用し、ブラッシュアップを図った。

ii) プログラム形態

- ・第一段階：1年次生（科目名 O/OCF-PBL1：2単位）

企業等とは連携しない実践的 PBL 型授業で、学内インタビュー・アンケートが課題として与えられた。

- ・第二段階：2年次生（科目名 O/OCF-PBL2：2単位）

企業等と連携した実践的 PBL 型授業で、企業等から課題が与えられた。

- ・第三段階：3年次生（科目名 O/OCF-PBL3：2単位）

企業等と連携した実践的 PBL 型授業で、企業等から課題が与えられた。

iii) 企業等から与えられた課題

◆株式会社 モリタ製作所

・事業概要

歯科・医科医療器械器具の製造・販売

・課題内容

「『人にやさしい診療空間』今までにない新型歯科診療台（チェア・ユニット）の構想」

現在の歯科医院はどうしても「痛い」「こわい」というイメージが多く行きにくいところでは。

そんな中、当社は「人にやさしい診療空間」を創造し、患者さんの不安な気持ちや恐怖感を取り除けるような製品を世の中へ広めていきたいと思っております。そこで皆さんが一度は座ったことのある歯科診療台（チェア・ユニット）において、今までにない「人にやさしい」製品の『構想』を考えていただこうと思います。

◆タキイ種苗 株式会社

・事業概要

野菜種子、草花種子、牧草種子、芝草種子、山林用種子、野菜・花き苗、球根、宿根草、花木、果樹苗、庭園用樹木、造園工事、農業用フィルム、肥料、農薬、農園芸用図書出版発行、温室・ハウス設計施工、その他農園芸用資材全般

・課題内容

「将来の日本農業のあるべき姿と、種苗メーカーが果たせる役割は何か」

消費者の食の安全・安心への関心が高まるなかで、農業人口や耕地面積は減少し、食料自給率は長らく低迷するなど、日本農業は数多くの問題を抱えている。また、海外からは農産物の貿易自由化への圧力も高まっており、農業政策も含めた日本農業のあるべき将来像を客観的な視点から考察していただき、それに対して、種苗メーカーである当社の事業がどのような役割を果たせるのかを考えていただきたい。

◆株式会社 一保堂茶舗

・事業概要

京銘茶の加工・製造及び小売

・課題内容

「大学生対象の日本茶の魅力体感型イベントの企画提案」

ペットボトルのお茶が普及し、『茶葉』から急須で淹れる習慣が徐々に薄れている現代、茶葉にこだわり続け290年が経つ一保堂茶舗は、茶葉の持つ魅力を多くの人に知っていただきたいと思っています。

そこで、実際にお茶を試飲し、工場見学や社員へのインタビューを通じて、お茶の魅力を再発見し、対象となる大学生へのアンケート調査からニーズを分析し、「正しく」「楽しく」お茶の魅力を伝えるための体感型イベントを企画提案して頂きます。

◆京都産業大学

- ・ 事業概要

大学教育・研究

- ・ 課題内容

「社会人基礎力が付く、学生による、学生のためのカリキュム・マップの作成」

学生は、一般に、卒業要件を満たすだけのために、安易に科目選択をしがちである。しかし、学生が学習意欲をもって受講すれば、大学に設置されている科目は、なんらかのかたちで現実に役立つものばかりである。この課題は、学生が自身の自己実現に向けて、意欲をもって学習するための自分自身の案内図を、社会人基礎力の観点から、学生の目線で作り上げることを狙っている。この課題に挑戦することによって、大学での学習の役立ちに学生が気づき、さらに、その成果が、一般学生の役に立つことを願っている。

iv) プログラム構成

プログラムの構成はクラス毎に若干異なるが、ここではタキイ種苗クラスの例を以下に掲げる。

<タキイ種苗クラスの課題>

『将来の日本の農業のあるべき姿と、種苗メーカーが果たせる役割は何か?』

日程	授業中の活動（または授業外の自主活動）	特に意識した能力要素
4月16日	適性検査1回目 CRATTI、PC-TAOK	
4月18日	合宿（神山研修棟） ・ファーストミーティング、 ・オリエンテーション、事前評価（自己）、 ・チームビルディング研修	主体性、状況把握力、 規律性
4月19日	合宿（神山研修棟） ・チームビルディング研修	主体性、状況把握力、 規律性
4月23日	企業からの課題説明【企業担当者来学】	主体性、発信力、 状況把握力
4月30日	チーム別授業① ・企業担当者との質疑応答の振り返り、 ・中間報告に向けて、今後の方針を話し合う	主体性、働きかけ力

3 実践型学習における取組

a. 産学連携による実践型学習における取組

日程	授業中の活動（または授業外の自主活動）	特に意識した能力要素
5月7日	チーム別授業② ・日本の農業の現状分析について、各自調べてきたことを発表する（3名）	課題発見力
5月14日	チーム別授業③ ・日本の農業の現状分析について、各自調べてきたことを発表する（3名）	課題発見力
5月21日	チーム別授業④ ・中間報告でどんなことを話すのか、具体的な内容を話し合い、一定の方向性を導きだす	課題発見力、働きかけ力
5月28日	チーム別授業⑤ ・農業に関わるいろんな立場の意見を列挙 ・中間報告の内容をまとめる	課題発見力、働きかけ力
6月4日	チーム別授業⑥、中間（自己）評価 ・中間報告のプレゼンリハーサル	主体性、計画力
6月11日	中間報告【企業担当者来学】、 中間（他者）評価	主体性、発信力、ストレスコントロール力、規律性
6月18日	チーム別授業⑦ ・中間報告で得た内容の共有と今後の進め方について話し合う	課題発見力、働きかけ力
6月25日	チーム別授業⑧ ・NHKのディレクターが来訪 ・野菜の食べ比べを実施	課題発見力、働きかけ力、発信力
7月2日	チーム別授業⑨ ・今後の進め方について話し合う	課題発見力、計画力
7月3日	タキイ種苗（株）試験農場訪問 ・試験農場内を見学させていただく	主体性、発信力、傾聴力、状況把握力、ストレスコントロール力、課題発見力、規律性
7月8日	（株）マイファーム訪問 ・家庭菜園ビジネスについてヒアリング ・日本の農業のこれからについてヒアリング	主体性、発信力、傾聴力、状況把握力、ストレスコントロール力、課題発見力
7月9日	チーム別授業⑩ ・タキイ種苗試験農場で得たことをまとめる	課題発見力、働きかけ力
7月16日	チーム別授業⑪ ・今後の夏休みのスケジュールを話し合う	課題発見力、計画力、働きかけ力

日程	授業中の活動（または授業外の自主活動）	特に意識した能力要素
7月24日	工学部の山岸教授にヒアリング ・日本の農業のこれからについてヒアリング	主体性、発信力、傾聴力、 状況把握力、課題発見力
7月28日	経済学部の並松教授にヒアリング ・日本の農業のこれからについてヒアリング	主体性、発信力、傾聴力、 状況把握力、課題発見力
8月11日	タキイ種苗（株）本社訪問 ・現状の報告と質疑応答 ・本社及び研究所内を見学させていただく	主体性、発信力、傾聴力、 状況把握力、ストレスコントロール 力、課題発見力、規律性
8月19日	オルター訪問 ・安心安全の食材宅配事業について ヒアリング ・日本の農業のこれからについてヒアリング	主体性、実行力、発信力、 傾聴力、状況把握力、ス トレスコントロール力、課題発見 力、規律性
8月25日	滋賀の貸農園体験 ・実際に畑を耕し、苗を植える	主体性、働きかけ力
9月14日	京都農業会議を訪問 ・日本の農業のこれからについてヒアリング	主体性、実行力、発信力、 傾聴力、状況把握力、ス トレスコントロール力、課題発見 力、規律性
9月23日	滋賀の貸農園体験 ・苗の成長確認、草引き・収穫体験をする	主体性、働きかけ力
9月26日	チーム別授業⑫ 最終報告会【企業担当者来学】 事後（他者）評価 適性検査2回目 CRATTI、PC-TAOK 事後（自己）評価	主体性、実行力、発信力、 状況把握力、ストレスコントロール 力、課題発見力、規律性

v) チーム編成

◆学生の募集方法

2年次生から3年次生の学生対象に履修ガイダンスにて案内し、募集説明会を2日間行い、このプログラムの狙いと仕組み、授業日程を説明し募集活動を行った。2・3年次生は提示された企業課題ごとのチーム別に受付を行い、希望によりマッチングを行なった。

◆参加学生の所属（学部・学科）及び人数

学 部	2 年次生	3 年次生	計
経済学部	5 名	4 名	9 名
経営学部	4 名	4 名	8 名
法学部	2 名	2 名	4 名
理学部	0 名	1 名	1 名
工学部	2 名	0 名	2 名
合 計	13 名	11 名	24 名

◆メンバー構成、役割分担等

- モリタ製作所チーム：担当教員 1 名、学生 6 名（3 年次生 2 名、2 年次生 4 名）
 タキイ種苗チーム：担当教員 1 名、学生 6 名（3 年次生 3 名、2 年次生 3 名）
 一保堂茶舗チーム：担当教員 1 名、学生 7 名（3 年次生 5 名、2 年次生 2 名）
 京都産業大学チーム：担当教員 1 名、学生 5 名（3 年次生 1 名、2 年次生 4 名）

vi) 教職員と企業人等の役割分担

前述の 2（3）事業の実施体制の項（P. 16）で役割分担と実施体制を記述しているので、ここでは本プログラムの推進に係る重要な全スタッフによる第一回PBL教育事業実施推進全体会議を簡単に紹介する。同会議は3月のプログラムスタート時期に事業の全体像の把握{計画～実行～検証～改善策（PDCA）}と理解・認識並びに、教職員と企業人・評価委員等の役割分担を明確にするため、スタッフには負担をかけたが、時間をかけ周到なる内容で実施した。その内容は以下のとおりである。

出席者は、近畿経済産業局関係者をはじめ、課題提供企業関係者さらに第三者評価委員と普及推進委員をお願いした京都商工会議所や京都経営者協会等。本学からはキャリア教育研究センター長をはじめ、ヘッド教員の後藤経営学部教授他PBL授業担当者が出席した。会議では、本学のキャリア教育の取組みと課題解決力実践・PBL教育の説明、今回採択された「スパイラル・ステップアップ（Spiral Step-up）」の事業内容の詳細な説明を行なった。近畿経済産業局からは本事業の採択のポイントと留意事項等についての説明がなされた。その後、全体の意見交換が行われ、課題提供企業、第三者評価委員会、社会人基礎力普及推進委員会の協力を得て、今後本事業を推進（役割分担を含む）することが確認された。

その後、同実施推進全体会議は、9月・1月・2月に開催され、事業終了の3月時には次年度の改善策を中心としたPBL教育事業実施推進全体会議の実施を予定している。

② プログラムの運用

i) それぞれの授業や活動等における工夫

1. 目的意識とプログラムの進め方

a) ゴールの明確化と目的意識

プログラム初期にマインドマップを使用し自己理解を深めさせ、授業を通じて得たいことを明確にさせ最終ゴールの確認のためクラス共有を行った。また毎回、ゴールセッティングシートを利用して、社会人基礎力 12 要素のうち、意識して行動する要素を授業時間内に記入し、授業終了時に達成度の確認を行った。

b) プログラムの進め方の確認と修正

クラスとして進め方・目的・目標の設定、PDCA サイクルをまわすように意識させると共に常時、活動進捗状況把握のためのタイムスケジュールの確認と修正のための議事録作成をさせた。学生間の目線合わせを行い、コンサルティングのビジネスゲームという発想を伝え、必要に応じて中間報告など報告後に今後の進め方について再設定することにより最終報告に向けたゴールセッティングとプログラム作りのポイントを伝えた。

2. 役割分担とコミュニケーションによる授業の活性化

a) グループワーク

グループワーク中心の授業展開を行い、あくまでも主体的に、受身の授業ではないという認識を持たせた。

b) 役割分担

メンター、メンティーの関係について話し合い、授業毎にリーダー・発表者・記録係・フォロワーの経験を積ませることによりクラス内の役割分担を行いそれによる授業の活性化を行い学生の能力を引き出すことをめざした。

c) コーチングとファシリテーション

授業展開には、コーチングやファシリテーションの手法を活用した。

3. 授業外時間での工夫

a) 企業担当者と学生の意見交換

企業担当者と学生の直接の意図確認を行わせ、企業担当者と学生の意見交換が密に取れる工夫を行った。また、企業担当者からの審査・講評・アドバイスによる競争意欲の向上、困難体験の設定による成長を実感させた。

b) 授業外ミーティング

情報共有と授業外のミーティングの工夫としてメールリスト・グループウェアを使用したスムーズでタイムリーな意見交換を行った。また、授業時間の制限を踏まえ、各自(もしくは複数人)による情報収集担当と翌週の発表共有を行い集約しデータ化を進めると共に時間不足によるミーティング・作業のための日程調整を促し、図書館を使用、図書館書籍の有効活用をさせた。

4. IT・ビジネスマナースキルの提供と専門知識の活用

a) ITの活用

わかりやすい説明のためのパワーポイント・プレゼン講習を行うと共に、ITを駆使する工夫として情報教室を使用し、複数人で平行な資料作りを行い時間の有効使用を行った。またITリテラシーで優位な学生が主体的に積極的に指導する行動を促し不得意だった学生にもアンケート集計・見やすい資料作りの努力を体験させた。

b) ビジネスマナーレクチャーの実施

フィールドワーク調査の前にビジネスマナーに関するレクチャーを実施した。これは、各クラスで担当教員主導で行った。名刺交換の仕方や敬語の使い方などを行った。

c) 専門知識の活用

各学科の専門知識の活用としてポジティブシンキング、ラテラルシンキングなど専門学科による知識の応用を行った。

5. 情報収集した社会人基礎力養成プログラムの疑似体験

社会人基礎力が身に付くと想定されるプログラム・ワークショップの情報収集をした上で具体的に社会人基礎力が身に付くプログラムの実体験(ピンポンディベート・ディベート・グループディスカッション)を体験させた。

6. 評価基準への対応

最終プレゼンでは、社会人基礎力グランプリの評価基準に沿ったプレゼンテーション対応を行った。その結果、プレゼンテーションの内容については、企業からの課題解決に関する部分とそれを通じてどう社会人基礎力が伸びたのかに関する部分が半々ぐらいになった。結果として、学生の成長に関する部分を学生がお互いに話し合うことで、お互いに向き合い、学びが深まったように思う。

ii) 支援員(教職員、企業人等)によるファシリテート

1. 授業ファシリテーションの工夫

a) アイスブレイク

毎授業開始時にアイスブレイクを行いスムーズな授業導入を心がけた。アイスブレイクの内容としては、授業の初めに①この1週間で楽しかったことや、②本日の授業で得たいことを1分間プレゼンしてもらうことなどを行った。

b) 授業でのゴールセッティング

毎授業開始時でのゴールセッティングシート(資料2-①・②)の作成と、そのことについて授業終了時に意見交換を行った。ゴールセッティングシートには、その時間で得たいこと、及びその時間で得たこと、そして、社会人基礎力の12の要素についての自己採点(5点満点中)を記載してもらった。

c) 遅刻、欠席をなくすための工夫

今回の授業は木曜日の朝 1 限目の授業であったこともあり、はじめは遅刻・欠席者が相次いだ。そこで、遅刻・欠席をなくすべく、お互いに話し合わせルール決めをした。その結果、朝 7 時に起きたらクラスのメーリングリストにその旨を流し、7 時 5 分になってもメールが流れない人に対して、電話担当が電話をして起こすということにした。また、それでも遅れてきた学生に対しては、他の人に缶コーヒーを振る舞うなどのペナルティーを科すこともありうるということで合意をとった。

d) チーム内の役割分担とモチベーションの管理

チーム内において、リーダーとフォロワーの役割分担を早い時点でを行い、作業へのスムーズな取組みを促した。また、学生のモチベーションの高低差による不満・不安・疑問の解消のため話し合いの場を設定し、学生が自分達で問題解決できるようにサポートした。

e) 学生からのリクエストをきちんと受け止める

授業外で集まるための教室の確保や企業担当者への追加訪問など、学生から出たリクエストに対して、きちんと耳を傾け、関係者と話し合っ、可能な範囲で実現させるべく対応した。また、授業に対して不満や問題がある学生に対しては、個別に面談し、じっくりと話し合うことで、不満の解消や問題解決へと導いた。

f) フィールドワーク時の対応と振り返り

フィールドワークとして企業訪問した際に、企業担当者への質疑応答や話のまとめをファシリテートした。また、企業訪問後に学生に振り返りをさせ、得たことや学んだことを明確にさせた。

2. 学生にマーケティングの視点を持たせる

a) 企業側の視点を持たせる工夫

学生に企業側の視点を持たせ、企業の求めているものを明確化させた。

b) 市場調査のための知識と手法を提示する

市場調査のための知識を提供すると共に、KJ 法を活用して市場調査アイデアのグループ分けを行わせ、市場調査を円滑に実施できるよう、サポートした。

3. 関係者間の協力体制を作る

a) 学生同士の連絡、交流の促進

授業の最初に、お互いに連絡が取り合えるよう連絡網を作成し、クラス全員で親睦を深める目的で食事会などの懇親会を行った。

b) 教員同士の協力体制

毎授業後に、教員同士の振り返りのミーティングを行い、課題の共有や進め方の確認を行った。それによって、教員同士の協力体制を築くことができた。

c) 企業担当者と教員の協力体制

教員と企業担当者との、随時メールや携帯電話でやり取りを行い、密な連携による協力体制を築くことができた。

iii) 支援員の育成（指導）力向上のための工夫

1. ファシリテーションの能力向上のための研修実施

支援員がマインドマップを活用できることを目的として、支援員に対してマインドマップ研修を実施した。また、このマインドマップは、学生の自己理解を深めさせ、授業を通じて得たいことを明確にさせるために活用した。

【プログラム内容】

- ・マインドマップの概念説明
- ・その効果
- ・必要となる準備物
- ・描くときのポイント
- ・応用範囲
- ・実践（実際に描いてみる）
- ・振り返り（プログラム化する際の留意点の洗い出し）

2. 毎授業後の振り返りと話し合い

毎授業後は各教員と職員とが必ず集合し、授業の進捗や授業を行う中で気になったこと、現時点での問題点を共有し、解決方法について話し合った。この時間を持つことで、お互いの教え方についてのノウハウを共有することができ、また育成力の向上に繋がった。

3. OJTによる育成力向上

新たなアイデアや授業方法に関しては、実際に授業で導入し、試行錯誤する中で模索を図った。また、そこで得た内容について、授業後の振り返りの場などで共有した。

③ 育成手法の反省事項と改善策

i) 反省事項

今回は、企業担当者と学生の接点を、大まかにいって ①課題説明会、②中間報告、③フィールドワーク、④最終報告と4回設定していたが、結果として少なかったように思う。このことは、実際に学生の授業後アンケートにも記載されていた。特に最終報告会においては、20分と限られた時間を使用したのが、別途企業担当者へ1時間程度の発表をしたいという要望も強く見られた。結果として、企業担当者の意向やゴールイメージと学生の進め方とのギャップが見られることとなった。これは、今後改善していく必要があると思われる。

ii) 改善策

課題設定の段階から、企業担当者と担当教職員との話し合いをじっくり行い、まずは、教職員と企業担当者との協力体制を築ければなお、効果的と思われる。そして、その中で、企業担当者が学生と接点を取っていただくことの重要性をご理解いただき、企業担当者と学生との接点を、各クラスの状況に応じて柔軟に増やすことができるよう工夫・改善が必要である。

(2) 社会人基礎力の評価手法について

① レベル評価基準

この取組にあつては、社会人基礎力の評価は次の2つの側面からなされた。したがって、測定方法やレベル評価基準はそれぞれの側面によって異なっている。

i) 外面的評価：「〇〇できる」という見える部分のモニタリングによる評価

この取組のレベル評価基準には、経済産業省のもの（経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』、28 - 29 頁。）をそのまま用いた。

ii) 内面的評価：「〇〇できる」能力を内面から支えている知的・精神的側面の検査による評価

社会人基礎力3つの力のうち「考え抜く力」を内面から支えている知的側面（頭の働かせ方）を CRATTI（適性科学研究センター）で測定し、測定値を偏差値（平均=50、標準偏差=10）であらわす。また、社会人基礎力3つの力のうち「前に踏み出す力」と「チームで働く力」とを内面から支え、社会人基礎力を行動に結び付ける精神的側面（精神的タフネス）は PC-TAOK（適性科学研究センター）で測定し、測定値を偏差値（平均=50、標準偏差=10）であらわす。

CRATTI は人間の知的能力を「頭の働かせ方（知能構造）」の観点からとらえ、その特徴を次の2側面から測定する。

a. 収束的思考

正しい答えを求めようとする頭の働かせ方

b. 発散的思考

いろいろな答えを求めようとする頭の働かせ方

また、PC-TAOK は、人の精神的タフネスの程度を人との係わりに起因する負荷に耐える強さとしてとらえて、人との係わりを次の3つの切り口でとらえている。

a. 自分と自分との関係

自分と自分との関係が、自己信頼度と自己表現度との2軸でとらえられる。検査は、アイデンティティの発達度をこの2軸で測定し、自己実現の欲求の表われ方（自己表現スタイル）の特徴を示そうとしている。精神的タフネスの観点からいえば、自分対自分の関係に起因する負荷に対するタフさが測定されているということになる。

b. 自分と他者との関係

自分と他者との関係が、他者信頼度と他者援助度との2軸でとらえられる。検査は、コミュニケーション能力をこの2軸で測定し、コミュニケーションの欲求の表われ方（対他者交流スタイル）の特徴をみようとしている。精神的タフネスの観点からいえば、自分対他者の関係に起因する負荷に対するタフさが測定されているということになる。

c. 自分と集団との関係

自分と集団との関係が職務遂行傾向度と対人親和度との2軸でとらえられる。検査は、コーピング能力をこの2軸で測定し、モチベーションの欲求の表われ方（対集団行動スタイル）の特徴をみようとしている。精神的タフネスの観点からいえば、自分対集団の関係に起因する負荷に対するタフさが測定されているということになる。

② 評価実施要項

すでに述べたように、この取組にあっては、社会人基礎力の評価は外面・内面の2つの側面からなされ、実施要領もそれぞれ異なっている。

i) 外面的評価

a. 自己評価

◆評価の回数・時期

事前、事中、事後の3回実施された。実施時期については以下の通りである。

- ・事前自己評価：学期開始時
- ・事中自己評価：学期中間
- ・事後自己評価：学期終了時

◆学生が自己評価に慣れるために行った工夫

次のような工夫がなされ、自己評価についての学生の戸惑いは見られなかった。下記の工夫に効果があったと思われる。

- ・学期初めのオリエンテーション時に、社会人基礎力レベル評価基準表（資料1）を配布し、説明を徹底した。
- ・毎授業時間の開始に当たり社会人基礎力ゴールセッティングシート（資料2-①・②）を記入させ、授業終了時に振り返り（資料2-①・②）を行う。

b. 他者評価

◆評価者

この取組は次の4チームで実施され、それぞれのチームに1名の担当者をつけた。

- ・モリタ製作所チーム（6名）
チーム担当者：コーオプ教育スタッフ
企業側担当者：人事担当社員

- ・タキイ種苗チーム（6名）
チーム担当者：コーオブ教育スタッフ
企業側担当者：人事担当社員
- ・一保堂茶舗チーム（7名）
チーム担当者：コーオブ教育スタッフ
企業側担当者：人事社員
- ・京都産業大学チーム（5名）
チーム担当者：教員
企業側担当者：教学担当事務部長、シニアアドバイザー

◆評価の回数・時期

事中、事後の2回実施された。実施時期については以下の通りである。

- ・事中他者評価：学期中間に実施された中間報告会時
- ・事後他者評価：学期終了時に実施された最終成果報告会時

◆評価の方法

- ・チーム担当者による評価は、授業時や授業時外でみられる学生の日常の行動を対象にして、モニタリングで実施した。
- ・企業側担当者の場合、学内で実施される中間報告会・最終成果報告会に参加した際ならびに学生が企業訪問した際に観察した学生の行動をモニタリングして評価した。

◆評価者の評価力向上のための工夫

社会人基礎力育成・評価に関する情報共有と評価者の評価力向上のために、事前に、全関係者（企業側担当者、チーム担当者、事務局スタッフ、第三者評価委員、社会人基礎力普及推進委員、近畿経済産業局担当メンバー）による全体会議を開催した。その会議で、この取組の概要を説明するとともに、「社会人基礎力育成のための評価システムと実施日程・手順」（資料3）と題し、ファイルに綴じた保存用資料を配布して評価に関する解説をした。

◆適切かつ効率的な評価の実施のための工夫

多忙な企業側担当者と学生（学生も意外に時間がとりにくい。）との間に、十分な接触時間を用意することは非常に困難である。そこで、企業側担当者の来学が決まっている中間報告会や最終成果報告会を活用し、チームメンバーが少人数で、メンバーの行動が一覧できることもあり、チーム単位でのモニタリングを実施することにした。そして、モニタリングの効率化を図り、質を向上させるために、次のような工夫をした。

- ・12要素を個々に評価するのは非常に困難なので、評価項目を圧縮して、3つの能力に簡略化した。
- ・企業側担当者が参加する報告会当日にチーム別の意見交換会を持ち、その間をモニタリングの時間に当てた。

- ・企業側担当者が個々の学生を明確に識別できるように、胸には名札を付け、席のテーブルにも大きな名札を置いた。

ii) 内面的評価

全員を1つの教室に集め、CRATTI および PC-TAOK（何れも適性科学センター）を実施した。

- ・事前評価：学期開始時 90分
- ・事後評価：学期終了時 90分

実施後は、検査用紙を回収し、適性科学センターに郵送した。約2週間後に、測定結果とその解釈とが返送されてきた。

③ 成長の記録・評価のフィードバック方法

i) プロGRESSシート

◆様式

経済産業省のモデルをそのままプロGRESSシートとして用いている（経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』47-48頁）。

◆記載の流れ及び記載要領、フィードバックの方法（タイミング・内容）

プロGRESSシートは受講生のあゆみと成長の記録である。したがって、この取組が終了し、事前・事中・事後評価シートなどすべての記録が整った段階でチーム担当者が記載した。各項目の記載内容は以下の通りである（経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』48頁）。

【プロジェクトの活動内容、目標】

事前評価シートにある同じ項目を転載した。

【自己評価の履歴】

事後評価シートに、学生が授業全体を振り返って、自身の成長について記したものを転載した。

【活用した（学んだ）専門知識やスキル等】

事後評価シートの同じ項目を転載した。

【(チームとしての) 活動成果】

事後評価シートの同じ項目を転載した。

【プロジェクトでの役割・担当としての活動】

事後評価シートの同じ項目を転載した。

【他者（教員・外部評価者<企業人等>）評価の履歴】

- ・中間レベル、事後レベルの欄

事中、事後評価シートにある「教員と外部評価者の総合評価」から転載した。

- ・具体的行動事実の欄

事中、事後評価シートにある教員または外部評価者のコメントを活用して記載した。

◆プログレスシート活用の可能性とその具体的工夫

- ・ エントリーシートに、この取組を受講して終了したことや、その「あゆみと成長の記録」があることを書き、その内容を自己 PR などに活用した。
- ・ 面接時にプログレスシートを活用した。

◆学生が記載に慣れるための工夫

- ・ 経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』（28～31 頁）を活用して、予め、事例を示した。
- ・ 授業開始時にゴールセッティングシート（資料 2-①・②）を配布し、それに、その時間の行動目標を記入した。そして、終了時に振り返りを行い、その結果をゴールセッティングシートに記入した。上記事例を頭に置いて、これを毎時間繰り返すことにより、自己評価にも慣れ、自身の行動を振り返り、文章化する力も向上した。

ii) 評価シート

◆様式

経済産業省の様式（経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』、44～46 頁）をそのまま活用した。

◆記載の流れ及び記載要領、フィードバックの方法（タイミング・内容）

【 事前評価シート 】

- ・ 事前評価シートを、提出 1 週間前に、記入方法が例示してある経済産業省の様式（経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』44 頁）のコピーを付して学生に配布した。
- ・ 学生は、記入方法の例示にしたがって事前評価シートの学生本人記入欄に記入して、1 週間後の授業で担当者に手渡した。
- ・ 事前評価シートを受け取った担当者は、教員・講師からの講評・アドバイス欄に記入したのち、一部のコピーを残して、原本を次週の授業で返却した。

【 中間評価シート 】

- ・ 学期の中間で、担当者は、記入方法が例示してある経済産業省の様式（経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』45 頁）のコピーを付して、中間評価シートを学生に配布した。
- ・ 学生は、記入方法の例示にしたがって中間評価シートの学生本人記入欄に記入して、1 週間後の授業で担当者に手渡した。
- ・ 担当者は、中間報告会に参加すべく来学した企業側担当者に、学生の数に応じた枚数の中間評価シートを手渡した。企業側担当者は、中間報告会当日にモニタリングした結果を中間評価シートに記入し、担当者に手渡した。
- ・ 企業側担当者から中間評価を受け取ったチーム担当者は、受領後速やかに、教員記入欄に記入した。記入に当たっては、レベル評価の結果だけではなく、評価根拠も記載した。
- ・ チーム担当者の記入完了後、1 部コピーを残し、速やかに原本を学生に返却した。

返却に当たっては、口頭でコメントしながら、学生のモチベーションを高める配慮をした。

◆学生が記載に慣れるための工夫

経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』（28～31 頁）を活用して、予め、事例を示した。

また、毎授業開始時にゴールセッティングシート（資料 2-①・②）を学生に配布し、それに、その時間の行動目標を記入させた。そして、終了時に振り返りを行い、その結果をゴールセッティングシート（資料 2-①・②）に記入させた。上記事例を頭に置いて、これを毎時間繰り返すことにより、自己評価にも慣れ、自身の行動を振り返り、文章化する力も向上した。

iii) 活動記録シート

毎授業時間にゴールセッティングシート（資料 2-①・②）を記入させ、担当者が確認のうえ、次週にフィードバックしているので、これを活動記録シートに代えた。

(3) 授業や活動の具体的記録

<春学期>

	授業等 内容			
月日：4月16日(木) 時限：1 形態：全体 場所：5303教室	事前の適性検査を実施 経済産業省の「平成21年度体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」のモデル大学に採択された「スパイラル・ステップアップ(Spiral Step-up)社会人基礎力」の第1回目の授業日である4月16日(木)に事前の適性検査を実施した。 本学において過去3回実施したPBL型社会人基礎力育成教育の実績により、「課題解決」、「チームワーク」、「コーチング・ファシリテーション」を組み合わせた本学のトライアングル育成システムは、確実に社会人基礎力を向上させることが実証されている。 適性検査は社会人基礎力評価システムの一環として、検査による客観的内面評価の導入を図るためのもので、社会人基礎力のうち、シンキングの数値をCRATTI(適性科学研究センター)で、また、アクションとチームワークの数値をPC-TAOK(適性科学研究センター)で測定するものである。9月にも事後の適性検査も実施し、上記能力の事前と事後との測定値を比較して教育効果を測定することに利用した。			
月日：4月23日(木) 時限：1 形態：クラス別 場所：5号館各演習室	「O/OCF-PBL2・3」企業等からの課題説明の実施 本学における社会人基礎力の育成システムは、課題解決、チームワーク、コーチング・ファシリテーションを三本柱にしたトライアングル方式の育成システムを採用している。このうちの課題解決については、企業等と連携した実践的PBL型授業で、企業等から与えられた現実的な課題を解決していく中で社会人基礎力を育成しようとするものである。4月23日(木)の授業では、企業等から担当者が来学され課題の説明が行われた。各クラスの状況は次のとおり。			
	クラス別授業			
	【モリタ製作所クラス】 課題名：「人にやさしい診療空間」今までにない新型歯科診療台(チェア・ユニット)の構想 1. ゴールセッティングシートの記入 2. モリタクラスの学生6名の自己紹介と受講目的を発表 3. モリタ製作所の会社概要のご紹介と今回の課題についての解説 4. 学生からの質問に対する質疑応答と企業からの視点ポイント解説 5. 振り返りシートの記入	【タキイ種苗クラス】 課題名：将来の日本農業のあるべき姿と、種苗メーカーが果たせる役割は何か 1. タキイ種苗クラスの学生6名とタキイ種苗のご担当者2名(本田様、高木様)の自己紹介 2. タキイ種苗の会社概要のご紹介と今回の課題についての解説 3. 学生からの質問に対する質疑応答 4. 今後のスケジュールを確認する 5. インフォメーション	【一保堂茶舗クラス】 課題名：大学生対象の日本茶の魅力体感型イベントの企画提案 1. ゴールセッティングシートの記入 2. 一保堂クラスの学生7名の自己紹介と受講目的を発表 3. 一保堂の会社概要のご紹介と今回の課題についての解説 4. 学生からの質問に対する質疑応答 5. 振り返りシートの記入	【京都産業大学クラス】 課題名：社会人基礎力が付く、学生による、学生のためのカリキュラム・マップの作成 課題を提供した京都産業大学教学センターから2名(教学センター事務部長およびシニアアドバイザー)が参加し、チーム担当教員も交えた質疑応答を通してテーマの絞り込みを行った。
月日：4月30日(木) 時限：1 形態：クラス別 場所：5号館各演習室	クラス別授業			
	【モリタ製作所クラス】 1. ゴールセッティングシートの記入 2. 4/26 近畿デンタルショー見学の報告及び感想共有 3. 今後、中間報告までにやらなければならないこと、及びスケジュールの洗い出し 4. 今後のスケジュールについて予定確定 5. ゴールセッティングシートに今日どうだったか記入	【タキイ種苗クラス】 1. 現状分析の役割分担 2. 木1の流れを決める 3. 次回の目標を確認 4. 中間報告までに何をするか	【一保堂茶舗クラス】 1. このクラスの組織としてのあり方を検討し、各自の役割を分担(リーダー、サブリーダー、情報担当、組織活性担当) 2. 中間発表までの取組みについてディスカッション 3. 評価シート提出方法についてレクチャー	【京都産業大学クラス】 1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク 2. この時間のゴールセッティング 3. マインドマップを活用した計画設定 4. この時間の振り返り

3 実践型学習における取組

a. 産学連携による実践型学習における取組

授業等内容	
月日：5月7日(木) 時限：1 形態：全体/クラス別 場所：5号館各演習室	全体授業 適性検査のフィードバック 1. 4月16日実施の適性検査のフィードバック 2. 教育支援システム (Moodle)の利用方法についてレクチャー ــ クラス別授業 【モリタ製作所クラス】 1. ゴールセッティングシートの記入 2. 前回授業で決めた各自で取り組んだことを報告・情報共有(アンケート内容案報告・アンケート対象者の取り決め⇒幼稚園児・小学低学年・高齢者⇒歯科医師会・業者等)対象者によつての担当決め 幼稚園児・小学低学年・高齢者チーム・歯科医師会・業者チーム 3. チームに分かれて、内容詳細の話し合い 4. 振り返り(議事録について・情報共有について・意見交換) 【タキイ種苗クラス】 1. ゴールセッティングシートの記入及び共有 2. ゴールセッティングの重要性和プロジェクトの進め方についてレクチャー 3. 日本の農業について各自調べてきたことを発表 4. 本日の授業時間での意見のまとめと次回の授業目標の共有 5. 次回の授業までに集まる日程の調整 6. ゴールセッティングシートの記入 【一保堂茶舗クラス】 1. ゴールセッティングシートの記入 2. この1週間各自で取り組んだことを報告(お茶の成分や栄養について調査、他社のサイトチェック、日本茶検定について等) 3. 情報共有の仕組みについて(SNS、スカイプ等の活用を検討) 4. 中間報告についてのイメージ共有とやるべきことの検討 5. 振り返り 【京都産業大学クラス】 ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク ・この時間の目標設定 ・計画の確認 ・カリキュラム・マップ作成のための対学生アンケートの作成準備 ・この時間の振り返り
月日：5月14日(木) 時限：1 形態：クラス別 場所：5号館各演習室	ــ クラス別授業 【モリタ製作所クラス】 1. TWIを使用したアイスブレイキング 2. ゴールセッティングシートの記入 3. アンケートと情報収集のための幼稚園訪問の情報共有 4. 園児からもらった、「未来のイス」のお絵かき内容の確認 5. 歯科医からもらったアンケートへの返答の共有 6. これからのスケジュール確認 7. ゴールセッティングシートの記入と今日の振り返り 【タキイ種苗クラス】 1. ゴールセッティングシートの記入 2. ゴールセッティングの発表とアイスブレイク 3. 日本の農業について調べてきたことを発表 4. 中間発表への計画について 5. クラスとしてのあり方について 6. ゴールセッティングシートの記入と今日の振り返り 【一保堂茶舗クラス】 1. 組織力向上委員会によるアイスブレイキング(ラジオ体操) 2. ゴールセッティングシートの記入 3. 17日茶摘み体験について スケジュール等確認 4. 中間報告までのスケジュールについてディスカッション 5. 一保堂様訪問日程調整 6. 振り返り 【京都産業大学クラス】 1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク 2. この時間の目標設定 3. 計画の見直し 4. 来週までに、社会人基礎力に関する学生の意識調査のためのアンケートを完成 5. この時間の振り返り
月日：5月17日(日) 時限： 形態： 場所：	課外実習を実施 一保堂茶舗クラスは5月17日(日)、京都府宇治田原町において、次のとおり課外実習を実施した。 1. 目的 日本茶を急須で淹れる習慣を若者に広めるための前提として、日本茶について体験的に知ることを目的とする。 2. 日時 2009年5月17日(日) 8:00~17:00 3. 場所 京都府宇治田原町内 4. 参加者 一保堂クラス受講生7名、担当教員、一保堂担当者3名 計11名 5. 内容 (1) 新茶の茶摘み体験 (2) 製茶工場見学 (3) 茶香服(ちゃかぶき=日本古来の利き茶ゲーム)体験 (4) 煎茶発祥の地見学(永谷宗円生誕の地)

授業等内容																													
月日：5月21日(木) 時限：1 形態：クラス別 場所：5号館各演習室	クラス別授業 <table border="1"> <thead> <tr> <th>【モリタ製作所クラス】</th> <th>【タキイ種苗クラス】</th> <th>【一保堂茶舗クラス】</th> <th>【京都産業大学クラス】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. ゴールセッティングシートの記入</td> <td>1. ゴールセッティングシートの記入</td> <td>1. ゴールセッティングシートの記入</td> <td>1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク</td> </tr> <tr> <td>2. アイスブレイク(先週から今週にかけて楽しかったこと)</td> <td>2. ゴールセッティングの発表とアイスブレイク</td> <td>2. 組織力向上委員によるアイスブレイク(早押しクイズ)</td> <td>2. この時間の目標設定</td> </tr> <tr> <td>3. アンケート収集状況と、各担当からメンバーへの報告</td> <td>3. 学生らしい発想についての意見交換</td> <td>3. インタビューを目的とした一保堂訪問日程の調整</td> <td>3. アンケートは予定通り完成したが、アンケート趣旨が不明確で、使い物にならないことに気づく</td> </tr> <tr> <td>4. 中間発表に向けたゴールのスリ合わせと今後のスケジュール確認</td> <td>4. 自分の考える日本の農業問題についての意見交換</td> <td>4. 中間発表の計画について</td> <td>4. アンケートの計画が予定通り進まないため、当初予定していた中間報告の内容を見直し</td> </tr> <tr> <td>5. ゴールセッティングシートの記入と今日の振り返り</td> <td>5. ゴールセッティングシートの記入と今日の振り返り</td> <td>5. ゴールセッティングシートの記入と今日の振り返り</td> <td>5. 来週までに、社会人基礎力に関する学生の意識調査のためのアンケート趣旨を明確化</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6. この時間の振り返り</td> </tr> </tbody> </table>	【モリタ製作所クラス】	【タキイ種苗クラス】	【一保堂茶舗クラス】	【京都産業大学クラス】	1. ゴールセッティングシートの記入	1. ゴールセッティングシートの記入	1. ゴールセッティングシートの記入	1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク	2. アイスブレイク(先週から今週にかけて楽しかったこと)	2. ゴールセッティングの発表とアイスブレイク	2. 組織力向上委員によるアイスブレイク(早押しクイズ)	2. この時間の目標設定	3. アンケート収集状況と、各担当からメンバーへの報告	3. 学生らしい発想についての意見交換	3. インタビューを目的とした一保堂訪問日程の調整	3. アンケートは予定通り完成したが、アンケート趣旨が不明確で、使い物にならないことに気づく	4. 中間発表に向けたゴールのスリ合わせと今後のスケジュール確認	4. 自分の考える日本の農業問題についての意見交換	4. 中間発表の計画について	4. アンケートの計画が予定通り進まないため、当初予定していた中間報告の内容を見直し	5. ゴールセッティングシートの記入と今日の振り返り	5. ゴールセッティングシートの記入と今日の振り返り	5. ゴールセッティングシートの記入と今日の振り返り	5. 来週までに、社会人基礎力に関する学生の意識調査のためのアンケート趣旨を明確化				6. この時間の振り返り
【モリタ製作所クラス】	【タキイ種苗クラス】	【一保堂茶舗クラス】	【京都産業大学クラス】																										
1. ゴールセッティングシートの記入	1. ゴールセッティングシートの記入	1. ゴールセッティングシートの記入	1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク																										
2. アイスブレイク(先週から今週にかけて楽しかったこと)	2. ゴールセッティングの発表とアイスブレイク	2. 組織力向上委員によるアイスブレイク(早押しクイズ)	2. この時間の目標設定																										
3. アンケート収集状況と、各担当からメンバーへの報告	3. 学生らしい発想についての意見交換	3. インタビューを目的とした一保堂訪問日程の調整	3. アンケートは予定通り完成したが、アンケート趣旨が不明確で、使い物にならないことに気づく																										
4. 中間発表に向けたゴールのスリ合わせと今後のスケジュール確認	4. 自分の考える日本の農業問題についての意見交換	4. 中間発表の計画について	4. アンケートの計画が予定通り進まないため、当初予定していた中間報告の内容を見直し																										
5. ゴールセッティングシートの記入と今日の振り返り	5. ゴールセッティングシートの記入と今日の振り返り	5. ゴールセッティングシートの記入と今日の振り返り	5. 来週までに、社会人基礎力に関する学生の意識調査のためのアンケート趣旨を明確化																										
			6. この時間の振り返り																										
月日：5月28日(木) 時限：1 形態：クラス別 場所：5号館各演習室	クラス別授業 <table border="1"> <thead> <tr> <th>【モリタ製作所クラス】</th> <th>【タキイ種苗クラス】</th> <th>【一保堂茶舗クラス】</th> <th>【京都産業大学クラス】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. ゴールセッティングシートの記入</td> <td>1. ゴールセッティングシートの記入</td> <td>1. ゴールセッティングシートの記入</td> <td>1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク</td> </tr> <tr> <td>2. アイスブレイク(ナインドット)</td> <td>2. 各自の考え方のまとめ</td> <td>2. 議論の効率を上げるための問題提起(学生から)</td> <td>2. この時間のゴールセッティング</td> </tr> <tr> <td>3. 中間報告会に向けて意識のすり合わせとスケジュールリング</td> <td>3. 中間報告会に向けて発表内容の確認</td> <td>3. 中間報告会に向けてのスケジュールリング</td> <td>3. 計画の見直し</td> </tr> <tr> <td>4. 高齢者施設への訪問準備</td> <td>4. 中間報告に向けた準備の役割分担</td> <td>4. 本日の振り返り</td> <td>・中間報告を具体的に組み立てる際に、課題の趣旨をつかんでいないのに気づく(今までは、理解していたつもりになっていただけであることに気づく)</td> </tr> <tr> <td>5. 本日の振り返り</td> <td>5. 本日の振り返り</td> <td></td> <td>・課題提供担当者に会い、課題の趣旨を来週までに再確認</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4. この時間の振り返り</td> </tr> </tbody> </table>	【モリタ製作所クラス】	【タキイ種苗クラス】	【一保堂茶舗クラス】	【京都産業大学クラス】	1. ゴールセッティングシートの記入	1. ゴールセッティングシートの記入	1. ゴールセッティングシートの記入	1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク	2. アイスブレイク(ナインドット)	2. 各自の考え方のまとめ	2. 議論の効率を上げるための問題提起(学生から)	2. この時間のゴールセッティング	3. 中間報告会に向けて意識のすり合わせとスケジュールリング	3. 中間報告会に向けて発表内容の確認	3. 中間報告会に向けてのスケジュールリング	3. 計画の見直し	4. 高齢者施設への訪問準備	4. 中間報告に向けた準備の役割分担	4. 本日の振り返り	・中間報告を具体的に組み立てる際に、課題の趣旨をつかんでいないのに気づく(今までは、理解していたつもりになっていただけであることに気づく)	5. 本日の振り返り	5. 本日の振り返り		・課題提供担当者に会い、課題の趣旨を来週までに再確認				4. この時間の振り返り
【モリタ製作所クラス】	【タキイ種苗クラス】	【一保堂茶舗クラス】	【京都産業大学クラス】																										
1. ゴールセッティングシートの記入	1. ゴールセッティングシートの記入	1. ゴールセッティングシートの記入	1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク																										
2. アイスブレイク(ナインドット)	2. 各自の考え方のまとめ	2. 議論の効率を上げるための問題提起(学生から)	2. この時間のゴールセッティング																										
3. 中間報告会に向けて意識のすり合わせとスケジュールリング	3. 中間報告会に向けて発表内容の確認	3. 中間報告会に向けてのスケジュールリング	3. 計画の見直し																										
4. 高齢者施設への訪問準備	4. 中間報告に向けた準備の役割分担	4. 本日の振り返り	・中間報告を具体的に組み立てる際に、課題の趣旨をつかんでいないのに気づく(今までは、理解していたつもりになっていただけであることに気づく)																										
5. 本日の振り返り	5. 本日の振り返り		・課題提供担当者に会い、課題の趣旨を来週までに再確認																										
			4. この時間の振り返り																										
月日：6月4日(木) 時限：1 形態：クラス別 場所：5号館各演習室	クラス別授業 <table border="1"> <thead> <tr> <th>【モリタ製作所クラス】</th> <th>【タキイ種苗クラス】</th> <th>【一保堂茶舗クラス】</th> <th>【京都産業大学クラス】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. ゴールセッティングシートの記入</td> <td>1. ゴールセッティングシートの記入</td> <td>1. ゴールセッティングシートの記入</td> <td>1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク</td> </tr> <tr> <td>2. アイスブレイク(後出しじゃんけん)</td> <td>2. アイスブレイク</td> <td>2. 中間報告会リハーサルと課題抽出</td> <td>2. この時間の目標設定</td> </tr> <tr> <td>3. 中間報告会でのプレゼン方法について</td> <td>3. 中間報告会でのプレゼンテーション・リハーサル</td> <td>3. 報告会準備のスケジュールリング</td> <td>3. 次週にある中間報告のリハーサル</td> </tr> <tr> <td>4. 中間報告会に向けてスケジュールリング</td> <td>4. 意見を出し合ってまとめる</td> <td>4. 本日の振り返り</td> <td>4. この時間の振り返り</td> </tr> <tr> <td>5. 高齢者施設への訪問の方法検討</td> <td>5. 中間報告会のスケジュールを確認</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 本日の振り返り</td> <td>6. 本日の振り返り</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	【モリタ製作所クラス】	【タキイ種苗クラス】	【一保堂茶舗クラス】	【京都産業大学クラス】	1. ゴールセッティングシートの記入	1. ゴールセッティングシートの記入	1. ゴールセッティングシートの記入	1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク	2. アイスブレイク(後出しじゃんけん)	2. アイスブレイク	2. 中間報告会リハーサルと課題抽出	2. この時間の目標設定	3. 中間報告会でのプレゼン方法について	3. 中間報告会でのプレゼンテーション・リハーサル	3. 報告会準備のスケジュールリング	3. 次週にある中間報告のリハーサル	4. 中間報告会に向けてスケジュールリング	4. 意見を出し合ってまとめる	4. 本日の振り返り	4. この時間の振り返り	5. 高齢者施設への訪問の方法検討	5. 中間報告会のスケジュールを確認			6. 本日の振り返り	6. 本日の振り返り		
【モリタ製作所クラス】	【タキイ種苗クラス】	【一保堂茶舗クラス】	【京都産業大学クラス】																										
1. ゴールセッティングシートの記入	1. ゴールセッティングシートの記入	1. ゴールセッティングシートの記入	1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク																										
2. アイスブレイク(後出しじゃんけん)	2. アイスブレイク	2. 中間報告会リハーサルと課題抽出	2. この時間の目標設定																										
3. 中間報告会でのプレゼン方法について	3. 中間報告会でのプレゼンテーション・リハーサル	3. 報告会準備のスケジュールリング	3. 次週にある中間報告のリハーサル																										
4. 中間報告会に向けてスケジュールリング	4. 意見を出し合ってまとめる	4. 本日の振り返り	4. この時間の振り返り																										
5. 高齢者施設への訪問の方法検討	5. 中間報告会のスケジュールを確認																												
6. 本日の振り返り	6. 本日の振り返り																												

3 実践型学習における取組

a. 産学連携による実践型学習における取組

	授 業 等 内 容			
月日： 6月11日（木） 時限： 1 形態： クラス別 場所： 5号館各演習室	<p>経済産業省近畿経済産業局 事業見学に来学</p> <p>6月11日（木）経済産業省の本省及び近畿経済産業局から事業見学のため来学された。</p> <p>本学到着後は授業参観に先立ち、本学が取組んでいる社会人基礎力養成プログラム「O/OCF-PBL」の授業概要の説明を行い、その後各クラスの授業参観をしていただいた。</p> <p>授業参観は、「京都産業大学クラス」、「一保堂茶舗クラス」、「タキイ種苗クラス」、「モリタ製作所クラス」の順で行われた。当日は各クラスとも中間発表日であることから、企業側から担当者も出席されていた。</p> <p>中間報告は、企業からいただいた課題についての学生の活動状況の発表と、また学生の発表に対して、企業担当者からは様々なアドバイスいただき、最終報告会へ向けて引き続き、取組みが続けられることになる。</p> <p>経済産業省から学生に対しては、「O/OCF-PBL」という科目を受講した理由や他の科目と「O/OCF-PBL」との違い等について質問がなされた。</p> <p>授業終了後は、本学副学長並松も出席し、経済産業省の担当者、企業関係者と本学の授業スタッフとの意見交換が次のとおり行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業側から <p>企業側の負担増に繋がることであるが、今後学生の評価を行なう必要上、学生との接触度を高めることが不可欠ではないか。</p> ・経済産業省から <p>受講学生の主体性の強さを感じた。また、社会の第一線で活躍されている企業側と接触することが学生各自のモチベーションの高まりに繋がることであると思った。</p> ・本学担当者から <p>授業参観に立会いまだまだ物足りなさを感じた。我々の目的は、「O/OCF-PBL」で学んだことを今後社会で生かせるようになることである。すなわち、このグローバルな世界に立ち向かう学生諸君の内なる面をさらに高めることである。単なる小さな学生サラリーマンを育成することではない。</p> <p>以上の経緯で、経済産業省の事業見学と意見交換会を終了した。</p> 			
	クラス別授業			
	【モリタ製作所クラス】	【タキイ種苗クラス】	【一保堂茶舗クラス】	【京都産業大学クラス】
	<中間報告会> 1. ゴールセッティングシートの記入 2. 課題提供企業 モリタ製作所様(2名)をお迎え 3. 本日の流れご説明 4. 中間報告プレゼンテーション（但しまだ本来の提案「構想」ではなく「アイデア」の報告 5. 企業様との質疑応答 6. 経済産業省ご参観 7. 本日の振り返り	<中間報告会> 1. ゴールセッティングシートの記入 2. 本日の流れご説明 3. 中間報告プレゼンテーション（現状についてプロセスも合わせて報告） 4. 企業様との質疑応答 5. 経済産業省ご参観	<中間報告会> 1. ゴールセッティングシートの記入 2. 課題提供企業 一保堂茶舗様をお迎え 3. アイスブレイク（ラジオ体操） 4. 中間報告プレゼンテーション 「お茶物語～再発見からの出発～」 5. 企業様との質疑応答 6. 経済産業省ご参観 7. 本日の振り返り	<中間報告会> ◇課題提供者2名（京都産業大学教学センター）の参加を得て、中間報告会を実施し、課題解決に向けてのアドバイスを受ける ◇その間、経済産業省の担当者2名の参観を受ける（約10分間）
月日： 6月18日（木） 時限： 1 形態： クラス別 場所： 5号館各演習室	クラス別授業			
	【モリタ製作所クラス】	【タキイ種苗クラス】	【一保堂茶舗クラス】	【京都産業大学クラス】
	1. ゴールセッティングシートの記入 2. モリタ製作所へのフィールドワーク日程調整、今後のスケジュール確認 3. 今後の方向性についてディスカッション 4. モリタ製作所への質問項目の提出について 5. 歯科診療台シェアの市場マーケティングの方法についてディスカッション 6. 本日の振り返り	1. ゴールセッティングシートの記入 2. 中間報告の反省 3. ステークホルダーについての話 4. タキイ種苗訪問の日程調整 5. 本日の振り返り	1. ゴールセッティングシートの記入 2. モチベーションライン記入の提案 3. メーリングリストに企業担当者へ加入していただく件についてディスカッション 4. 次週のお茶の淹れ方体験について準備確認 5. 今後お茶の知識を深めるための方策についてディスカッション 6. 本日の振り返り	1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク 2. この時間の目標設定 3. 中間報告の振り返りと今後の課題の洗い出し（ゴールイメージを明確に） 4. この時間の振り返り

授業等内容	
月日：6月25日(木) 時限：1 形態：クラス別 場所：5号館各演習室	クラス別授業 【モリタ製作所クラス】 1. ゴールセッティング シートの記入 2. アイスブレイク(方向 感覚チャレンジ) 3. 現在の状況把握 4. モリタ製作所 資料 館見学の日程調整 5. モリタ製作所へ質問 を提出していたものへ の返事共有 6. 夏休み中、9月に入っ てからの集合日程につ いて 7. NHK 取材 8. ゴールセッティング シートの振り返り 9. 今日のまとめ
	クラス別授業 【タキイ種苗クラス】 1. ゴールセッティング 2. 野菜の食べ比べの準 備(スーパーの野菜、農 家直売の野菜、百円ショ ップの野菜、野菜工場で 作られた野菜、タキイ種 苗で品種改良した野菜 の食べ比べ) 3. 今後の進め方につ いて森川くん(リーダー) から説明 4. フィールドワークに ついて 5. 野菜の食べ比べ実施 6. NHK ディレクター三 浦氏の参観 7. 野菜の食べ比べのま とめ
月日：7月2日(木) 時限：1 形態：クラス別 場所：5号館各演習室	クラス別授業 【モリタ製作所クラス】 1. ゴールセッティング シートの記入 2. アイスブレイク(ドビ ン) 3. 現在の状況把握 4. モリタ製作所 資料 館見学、ご担当者との面 談 情報共有 5. 今後の方向性につ いて 6. 7/15 モリタ製作所訪 問の集合時間、場所の確 認 7. 京都経営者協会 西 村様と質疑応答 8. ゴールセッティング シートの振り返り 9. 今日のまとめ
	クラス別授業 【タキイ種苗クラス】 1. ゴールセッティング シートの記入と発表 2. リーダー交代の報告 3. 新リーダーからの今 後の方向性の提示 4. 教員の中尾から今後 の進め方についてのア ドバイス 5. 7/4 のタキイ種苗研究 農場へのフィールドワ ークについて 6. 京都経営者協会 西 村様と質疑応答 7. 本日のまとめ
	クラス別授業 【一保堂茶舗クラス】 1. ゴールセッティング シートの記入 2. 一保堂様からいただ いた茶葉で玉露及び煎 茶の淹れ方実践(温度や 浸出時間を変えて、色・ 味等比較) 3. NHK 様取材下見
	クラス別授業 【京都産業大学クラス】 1. 前回、ゴールイメージ がまだ十分明確になっ ていないことに気づい たことをうけ、課題提供 担当者2名に授業に参加 してもらい、ゴールイメ ージの摺合わせを行っ た。 2. この時間の振り返り を行い、ゴールイメージ の明確化、共有を図り、 課題解決へ向けての再 スタートを切った。 3. その間約 10 分間ほ ど、NHK 京都放送局の 取材下調べのための授 業参観を受けた。
	クラス別授業 【モリタ製作所クラス】 1. ゴールセッティング シートの記入 2. アイスブレイク(ドビ ン) 3. 現在の状況把握 4. モリタ製作所 資料 館見学、ご担当者との面 談 情報共有 5. 今後の方向性につ いて 6. 7/15 モリタ製作所訪 問の集合時間、場所の確 認 7. 京都経営者協会 西 村様と質疑応答 8. ゴールセッティング シートの振り返り 9. 今日のまとめ
	クラス別授業 【タキイ種苗クラス】 1. ゴールセッティング シートの記入と発表 2. リーダー交代の報告 3. 新リーダーからの今 後の方向性の提示 4. 教員の中尾から今後 の進め方についてのア ドバイス 5. 7/4 のタキイ種苗研究 農場へのフィールドワ ークについて 6. 京都経営者協会 西 村様と質疑応答 7. 本日のまとめ
	クラス別授業 【一保堂茶舗クラス】 1. ゴールセッティング シートの記入 2. 夏休みから最終報告 会までの流れについて 再確認 3. 学生向けアンケート の実施についてディス カッション 4. 京都経営者協会 西 村様ご見学
	クラス別授業 【京都産業大学クラス】 1. 傾聴訓練を兼ねたア イスブレイク 2. この時間の目標設定 3. ゴールイメージの絞 り込み 4. 卒業生へのインタビ ューを計画 5. この時間の振り返り 6. その間約 10 分間、外 部評価委員(京都経営者 協会 西村氏)の参観を 受ける。

3 実践型学習における取組

a. 産学連携による実践型学習における取組

授 業 等 内 容									
月日： 7月9日（木） 時限： 1 形態： クラス別 場所： 5号館各演習室	<p>社会人基礎力育成・評価システム構築事業の視察・インタビュー 実施</p> <p>7月9日（木）経済産業省近畿経済産業局と調査の委託を受けた株式会社リベルタス・コンサルティングと河合塾が、「社会人基礎力の育成・評価システム構築手法に関する調査」実施のため来学された。</p> <p>本学到着後は、授業参観に先立ち、本学が取組んでいる社会人基礎力養成プログラム「O/OCF-PBL」の授業概要の説明を行い、その後各クラスの授業参観が行なわれた。</p> <p>授業参観は、「一保堂茶舗クラス」、「モリタ製作所クラス」、「タキイ種苗クラス」、「京都産業大学クラス」の順で実施された。授業参観では、近畿経済産業局から学生に対して、「O/OCF-PBL」プログラムに参加した動機や受講生のうち2年次生と3年次生との役割の違い、さらには所属学部の特長科目との関連についての質問がなされていた。</p> <p>授業終了後は、河合塾による「平成21年度社会人基礎力育成・評価事業でのガイドブックに向けたポイント」について、プレゼンテーションが実施され、終了後は質疑応答と意見交換が行われた。</p> <p>意見交換終了後は、2つに別れ、統括担当教員である後藤文彦経営学部教授への知識修得型通常授業などについてのインタビューと受講学生へのインタビューが実施された。</p> <p>以上の経緯で、授業見学、プレゼンテーション、意見交換会及びインタビューを終了した。</p>								
	クラス別授業								
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">【モリタ製作所クラス】</th> <th style="width: 25%;">【タキイ種苗クラス】</th> <th style="width: 25%;">【一保堂茶舗クラス】</th> <th style="width: 25%;">【京都産業大学クラス】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 1. ゴールセッティング シートの記入及び、今日の目標を全員共有 2. アイスブレイク（ドビン） 3. 歯科医院、小学生向けアンケートの内容についてアイデア出し 4. アンケート方法について確認 5. 近畿経済産業局（2名）、リベルタスコンサルティング（1名）、河合塾（3名）、読売新聞（1名） 6. 今後の方向性について 7. 本日のインタビュー担当決め 8. 本日の振り返り </td> <td> 1. ゴールセッティング シートの記入とアイスブレイク 2. 秋以降のタイムラインの確認 3. 7/3のタキイ種苗研究農場、及び7/8のマイファーム訪問の2つのフィールドワークの情報共有 4. 今後の進め方と具体的な行動内容について話し合う 5. 近畿経済産業局（2名）、リベルタスコンサルティング（1名）、河合塾（3名）、読売新聞（1名） 参観、意見交換 </td> <td> 1. ゴールセッティング シートの記入 2. アイスブレイク（大きな声で「おはようございます！」） 3. 学生対象のお茶の意識アンケート内容についてディスカッション 4. 近畿経済産業局（2名）、リベルタスコンサルティング（1名）、河合塾（3名）、読売新聞（1名）参観、意見交換 5. アンケート実施に係る手続きについて確認 </td> <td> 1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク 2. この時間のゴールセッティング 3. OBインタビューの結果や他大学のカリキュラム・マップ事例を手がかりにして、クラスメンバー各人が仮に作成したカリキュラム・マップを持ち寄って、意見交換 4. この時間の振り返り 5. その間、近畿経済産業局、リベルタス・コンサルティング、河合塾、読売新聞の参観を受け、受講生との意見交換 </td> </tr> </tbody> </table>	【モリタ製作所クラス】	【タキイ種苗クラス】	【一保堂茶舗クラス】	【京都産業大学クラス】	1. ゴールセッティング シートの記入及び、今日の目標を全員共有 2. アイスブレイク（ドビン） 3. 歯科医院、小学生向けアンケートの内容についてアイデア出し 4. アンケート方法について確認 5. 近畿経済産業局（2名）、リベルタスコンサルティング（1名）、河合塾（3名）、読売新聞（1名） 6. 今後の方向性について 7. 本日のインタビュー担当決め 8. 本日の振り返り	1. ゴールセッティング シートの記入とアイスブレイク 2. 秋以降のタイムラインの確認 3. 7/3のタキイ種苗研究農場、及び7/8のマイファーム訪問の2つのフィールドワークの情報共有 4. 今後の進め方と具体的な行動内容について話し合う 5. 近畿経済産業局（2名）、リベルタスコンサルティング（1名）、河合塾（3名）、読売新聞（1名） 参観、意見交換	1. ゴールセッティング シートの記入 2. アイスブレイク（大きな声で「おはようございます！」） 3. 学生対象のお茶の意識アンケート内容についてディスカッション 4. 近畿経済産業局（2名）、リベルタスコンサルティング（1名）、河合塾（3名）、読売新聞（1名）参観、意見交換 5. アンケート実施に係る手続きについて確認	1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク 2. この時間のゴールセッティング 3. OBインタビューの結果や他大学のカリキュラム・マップ事例を手がかりにして、クラスメンバー各人が仮に作成したカリキュラム・マップを持ち寄って、意見交換 4. この時間の振り返り 5. その間、近畿経済産業局、リベルタス・コンサルティング、河合塾、読売新聞の参観を受け、受講生との意見交換
【モリタ製作所クラス】	【タキイ種苗クラス】	【一保堂茶舗クラス】	【京都産業大学クラス】						
1. ゴールセッティング シートの記入及び、今日の目標を全員共有 2. アイスブレイク（ドビン） 3. 歯科医院、小学生向けアンケートの内容についてアイデア出し 4. アンケート方法について確認 5. 近畿経済産業局（2名）、リベルタスコンサルティング（1名）、河合塾（3名）、読売新聞（1名） 6. 今後の方向性について 7. 本日のインタビュー担当決め 8. 本日の振り返り	1. ゴールセッティング シートの記入とアイスブレイク 2. 秋以降のタイムラインの確認 3. 7/3のタキイ種苗研究農場、及び7/8のマイファーム訪問の2つのフィールドワークの情報共有 4. 今後の進め方と具体的な行動内容について話し合う 5. 近畿経済産業局（2名）、リベルタスコンサルティング（1名）、河合塾（3名）、読売新聞（1名） 参観、意見交換	1. ゴールセッティング シートの記入 2. アイスブレイク（大きな声で「おはようございます！」） 3. 学生対象のお茶の意識アンケート内容についてディスカッション 4. 近畿経済産業局（2名）、リベルタスコンサルティング（1名）、河合塾（3名）、読売新聞（1名）参観、意見交換 5. アンケート実施に係る手続きについて確認	1. 傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク 2. この時間のゴールセッティング 3. OBインタビューの結果や他大学のカリキュラム・マップ事例を手がかりにして、クラスメンバー各人が仮に作成したカリキュラム・マップを持ち寄って、意見交換 4. この時間の振り返り 5. その間、近畿経済産業局、リベルタス・コンサルティング、河合塾、読売新聞の参観を受け、受講生との意見交換						

	授 業 等 内 容
月日： 9月26日（土） 時限： 1 形態： 全体 場所： 5229 演習室	<p>「O/OCF-PBL2・3」成果報告会の開催</p> <p>平成21年度経済産業省「体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」のモデル大学として採択された「スパイラル・ステップ アップ（Spiral Step-up）社会人基礎力—社会人基礎力を内面から高め、状況に応じて柔軟に活用できるようになるために—」は、本年度の春学期から「O/OCF-PBL2」（2年次生対象）と「O/OCF-PBL3」（3年次生対象）の科目名で開講された。</p> <p>このPBL2・3は、4月16日の適性検査を皮切りに、各種研修や合宿、企業からの課題説明、フィールドワーク、中間報告会及びチーム別授業を積み重ね、平成21年9月26日（土）に成果報告会を開催した。</p> <p>PBL成果報告会では、企業からの課題提供ごとに4チームで実施。各チームから「どのような活動に取り組み、どのように成長できたか」についての発表（プレゼンテーション）を行い、審査委員や企業の皆様から、学生たちの社会人基礎力の成長や知識の深まり等を審査いただいた。</p> <p>審査委員には、PBL教育事業の推進委員である就職情報研究所、京都経営者協会、京都放送の方々をお願いした。また、アドバイザーとして経済産業省近畿経済産業局からもご出席いただいた。さらに、秋学期から開講される1年次生対象の「O/OCF-PBL1」の受講者が発表会場に加わった。</p> <p>発表は、1チーム20分間で、学生のパワーポイントを使った発表や企業からのコメントと審査員との質疑応答がなされた。</p> <p>発表後の審査の結果、合計点が最も高かったタキイ種苗チームが“最優秀賞”に、次いで高かった一保堂茶舗チームが“優秀賞”に選ばれ、審査委員長から講評とともに表彰状が授与され、成果報告会を終了した。</p> <p>なお、出場チーム（クラス）及び提供課題は次のとおりであった。</p> <p>【モリタ製作所クラス】 『人にやさしい診療空間』今までにない新型歯科診療台（チェア・ユニット）の構想』</p> <p>【タキイ種苗クラス】 『将来の日本農業のあるべき姿と、種苗メーカーが果たせる役割は何か』</p> <p>【一保堂茶舗クラス】 『大学生対象の日本茶の魅力体感型イベントの企画提案』</p> <p>【京都産業大学クラス】 『社会人基礎力が付く、学生による、学生のためのカリキュラム・マップの作成』</p>